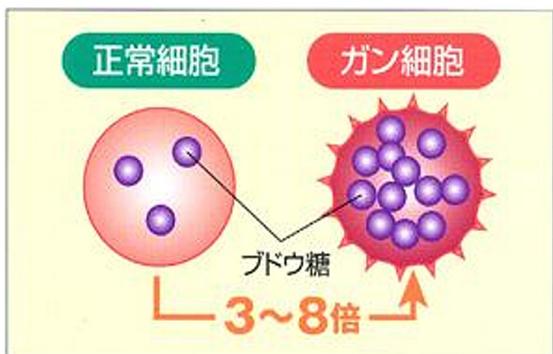
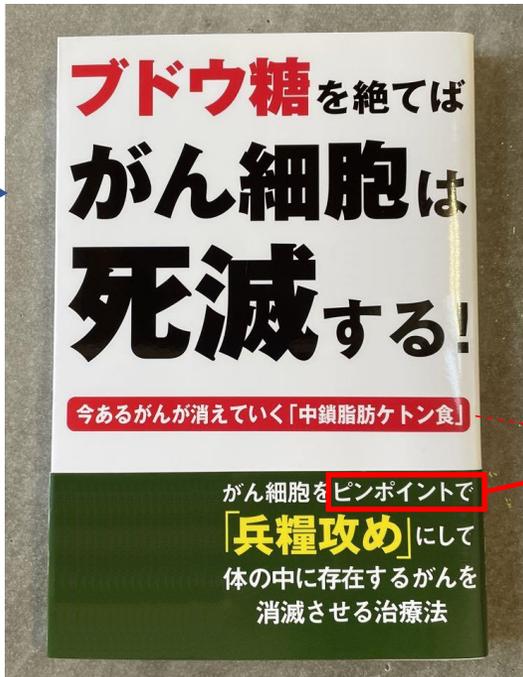


ブドウ糖を絶てば がん細胞は死滅する？

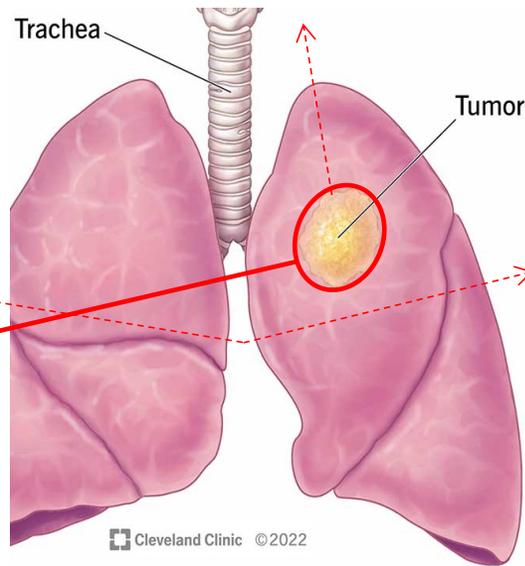


がん細胞が、ブドウ糖を多く取り込んで活動するのは事実である。

そして、このような本も存在するが...



「ピンポイントで...」の部分が小さな文字で書かれていることが大問題。「ピンポイントで...」というのは、たとえば下図の丸で囲んだ部分、即ち、がん組織の部分だけブドウ糖の供給を絶つ...という意味である。



仮に、ピンポイントではなくて肺全体におけるブドウ糖の供給が絶たれば、肺全体が死んでしまうことになる。

あなたなら、がん組織の部分だけブドウ糖を絶つことができますか？

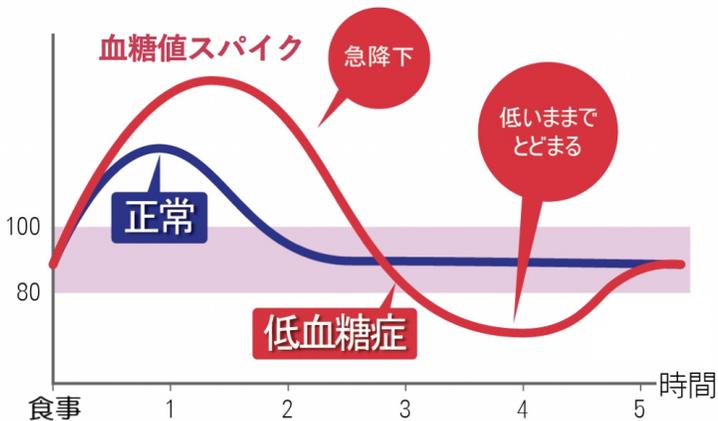
また、「中鎖脂肪ケトン食」のフレーズが、読者の誤解を更に深めることになっている。要するに「食事を変えることによってブドウ糖を絶ちましょう」と、促していることになる。

実際に読者は「糖質制限」を行うことによってがんが消滅するのだと思ってしまう、それを開始することになる。

Cleveland Clinic ©2022

この本の著者よりも、出版社側の意図によって問題が発生していると考えられる。

低血糖になることを推奨しているのか？
私たちは、口から放り込む糖質を制限したとしても、健常人である限りは血糖値が一定以上に保たれるわけであり、がん細胞はその血糖(ブドウ糖)を利用する。



ブドウ糖を絶つことなど出来ない。
糖質制限を行うことも、血糖値を乱す原因になる。その理由は、糖質が入ってこないため血糖調節機能を衰退させてしまうからである。

血糖値を乱す食事



一度に大量に糖質を食べる

精製糖質

糖質の制限

(原図の出典: <https://change-fit-gym.com/>)

低血糖になってしまうと

血糖値

70 mg / dl

50 mg / dl

30 mg / dl

<低血糖のおもな症状>

- 70 mg / dl: 強い空腹感、冷や汗、動悸、手の震え、脱力感、顔面蒼白、不安感、頭痛 など
- 50 mg / dl: 目のかすみ、眠気、集中力低下、めまい、強い脱力感、ろれつが回らない など
- 30 mg / dl: 昏睡、けいれん、気が遠くなる など

© 2021 kamimutsukawa.com

低血糖状態は上記のような症状を来す。
また、体は、アミノ酸からの糖新生を活発化させるため筋肉が痩せ、余剰になるアミノ基の処理によってアンモニア濃度が高まる。
更に、血中脂質濃度も高まり、循環器系疾患のリスクが高まる。
更に、副腎の疲弊や甲状腺機能低下が起こりやすくなる。

<作成: stnv基礎医学研究室>